

令和7年度 前期学校評価報告書

鬼北町立近永小学校

【評定の評価基準】 A：80%以上達成 B：70%以上達成 C：60%以上達成 D：50%以上達成 E：50%未満

【アンケート結果】 4：できている 3：おおむねできた 2：あまりできていない 1：ほとんどできていない

※集計により100%に満たない場合がある。

項目	評価指標	評価	考察(◇)と改善方策(◆)	評価資料	評定	肯定率 (4+3)	4	3	2	1
人間力	笑顔で挨拶ができる。	A	◇児童会を中心に挨拶運動に取り組み、個人差はあるが成果は表れている。 ◇通学班長が挨拶できる班は、全体的によくできる傾向がある。 ◇児童同士の挨拶はあまりできていない。 ◇保護者の評価から、家庭での挨拶ができていない状況が考えられる。 ◆いつでも、どこでも、だれにでもしっかりと挨拶ができる児童を育てていきたい。称賛したり声掛けをしたりするなどを繰り返し指導し、登下校の指導を含め、具体的に根気強く、教師から模範を示していく。また、家庭への啓発も進め、家族間・児童間での挨拶についても奨励していく。	保護者	B	75.2%	23.8%	51.5%	20.8%	4.0%
				地域住民	A	94.1%	47.1%	47.1%	5.9%	0.0%
				教職員	A	90.9%	18.2%	72.7%	9.1%	0.0%
				児童	A	82.7%	45.1%	37.6%	13.9%	3.5%
	②子どもたちは、話を聞くときには、相手を見てしっかり聞くことができている。	B	◇話し手に注目させ、聞く姿勢をきちんとさせる必要がある。 ◇手遊びや姿勢が崩れやすい児童がとても多い。授業を止め、全体に姿勢を正すよう声を掛ける必要がある。 ◇長時間は集中力が続かないので、話のポイントを示し短く話す必要がある。 ◆教師側も話すポイントを絞って、聞かせる声の調子、間の取り方、強弱を大切にする。必要に応じて資料を提示しながら話すように心掛ける。	保護者	A	86.1%	29.7%	56.4%	12.9%	1.0%
				地域住民						
				教職員	D	54.5%	9.1%	45.5%	45.5%	0.0%
				児童	A	93.1%	60.1%	32.9%	5.8%	1.2%
	③子どもたちは、相手を思いやりながら、協力し合って学校生活を送っている。	A	◇特別支援学級の児童へ優しい声掛け・手伝いを進んでできる児童が多い。(児童会の児童や高学年の児童) ◇おおむね優しい児童が多い。 ◇全体的に温かい雰囲気の中で学習に取り組むことができている。 ◆教育活動全般を通して、互いを思いやる気持ちを育て人権意識の高揚を図る。また、仲間意識や自己有用感を高められるよう、全校活動、学級活動を工夫する。	保護者	A	95.1%	31.4%	63.7%	3.9%	1.0%
				地域住民	A	100.0%	37.5%	62.5%	0.0%	0.0%
				教職員	A	100.0%	27.3%	72.7%	0.0%	0.0%
				児童	A	91.9%	67.6%	24.3%	5.8%	2.3%
	④児童、教職員で協働して清掃活動に努め、校内・校舎の周りの環境は気持ちよく整備されている。 ※児童の問い「そうじのさしすせそを守って掃除をしていますか。」	A	◇掃除がんばり賞の取組で目標を持って頑張っている児童が多い。 ◇掃除道具を決まった場所にきちんと片付ける指導が必要である。 ◇無言で作業ができる児童が多い。 ◆教員の指示がなくても、てきぱき動いて、自分で汚れに気付いてきれいにする児童を増やすような指導を工夫する。併せて、後片付けについての指導もしていく。掃除の「さしすせそ」を徹底させる。	保護者	A	100.0%	67.3%	32.7%	0.0%	0.0%
				地域住民	A	100.0%	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%
				教職員	A	100.0%	45.5%	54.5%	0.0%	0.0%
				児童	A	94.2%	75.1%	19.1%	2.9%	2.9%

活力	心身ともに健康で、一生懸命取り組む児童	⑤子どもたちは、自分から進んで体力づくりに取り組んでいる。	A	◇暑くなり外遊びをする児童が減った。 ◇休み時間や体育の授業での姿は良い。課外水泳への参加・取組がやや弱い。 ◆熱中症を意識して、運動内容や活動内容を工夫する。個々の体力に応じた目標を持って取り組ませ、体力の向上と頑張る心を養う。陸上練習への前向きに参加できるように、体育主任と学級担任との連携を深める。	保護者	B	76.5%	42.2%	34.3%	19.6%	3.9%
					地域住民						
					教職員	A	81.8%	27.3%	54.5%	18.2%	0.0%
					児童	A	88.4%	63.6%	24.9%	8.1%	3.5%
		⑥子どもたちは、行事や体験活動に意欲的に参加している。	A	◇運動会等、高学年を中心に児童が前向きに参加する様子が見られた。 ◇昨年度から運動会が1学期の開催となり、他の行事とのバランスを考えて実施した。高学年の修学旅行・宿泊体験学習は2学期へ移行した。 ◇行事を通して身に付けた力を日々の実践に生かしていくことを共通理解して取り組んだ。 ◆児童が意欲的に活動できるよう行事の意味や価値をしっかりと理解させて取り組ませる。また、行事や体験活動に取り組んで良かったと言えるよう、支援の在り方も工夫する。	保護者	A	99.0%	48.0%	51.0%	1.0%	0.0%
					地域住民						
					教職員	A	100.0%	45.5%	54.5%	0.0%	0.0%
					児童	A	91.3%	66.5%	24.9%	6.9%	1.7%
		⑦子どもたちは学校へ行くのを楽しみにしている。	A	◇全体的に評価は高いが、保護者・児童の評価に「2」と「1」があり、学校を楽しみにしていないことについて、改善を図らなければならない。（個別の対応が必要） ◇帰りの会等で、学校での楽しかった出来事を話す児童が多い。 ◇登校の不安を訴える児童が見られたが、それぞれ改善傾向が見られた。 ◆「学校が楽しい、明日も行きたい。」と誰もが言える学校を目指して、生徒指導体制や教育相談の充実、関係諸機関との連携を図る。また、児童の居場所づくりや仲間づくりにも努める。 ◆個別の対応が必要な児童について共通理解のもと支援する。	保護者	A	88.1%	43.6%	44.6%	8.9%	3.0%
					地域住民						
					教職員	A	90.0%	0.0%	90.0%	10.0%	0.0%
					児童	A	83.8%	57.2%	26.6%	10.4%	5.8%
		⑧自己有用感や所属感を感じられるような、豊かな人間関係や温かみのある学級づくりに努めている。	A	◇教師が認める場、子ども同士で認め合う場を意識的に設定した。 ◇学力が低い児童は、自己有用感も低くなりがちである。組織的に対応していく必要がある。 ◇愛媛大学から講師を招き、児童の自己有用感向上のための研修会を年間を通して実施し、教員の資質・能力の向上を目指している。 ◆児童一人一人に自信を持たせ、自分が好きと思える指導や子ども同士、教職員と子どもとのよりよい人間関係づくりを目指す。個別の指導・支援が必要な場合は組織的に対応していく。	保護者						
					地域住民						
					教職員	A	100.0%	22.2%	77.8%	0.0%	0.0%
					児童	A	90.8%	67.6%	23.1%	6.9%	2.3%

コミュニティ・スクール	地域の力を活用した学校づくり	⑭子どもは、「朝の歯磨き・洗顔・朝ご飯」の習慣が身に付いている。 *はゲーム時間、就寝時間に関する問い	B	◇「朝の歯磨き・洗顔・朝ご飯」について、学級で指導するだけでは改善が難しいので、家庭への啓発が必要である。 ◇ゲーム時間や就寝時間は、固定化しつつあり、課題が残る。 ◆PTAで協力して作成した「スマホの約束」を積極的に活用していく。ゲームの時間等については家庭への啓発を継続し、必要に応じて個別の対応を考えていく必要がある。 ◆生活習慣アンケートを実施の結果を通して、家庭への協力を呼び掛ける。	保護者	A	93.1%	53.9%	39.2%	6.9%	0.0%
					地域住民						
					教職員	A	80.0%	10.0%	70.0%	20.0%	0.0%
					児童	A	95.4%	81.5%	13.9%	2.9%	1.7%
					*保護者	C	60.8%	28.4%	32.4%	29.4%	9.8%
					*児童	A	85.5%	61.0%	24.4%	8.1%	6.4%
	地域の力を活用した学校づくり	⑮学校は、安全・安心な学校づくりに努めている。	A	◇児童が安心して学校生活を送ることができるよう、生徒指導を中心に、学校内外での生活について意識付けを行い、児童の安全への意識が向上している。 ◇6年生が、全校児童に学校での安全な過ごし方について発表したことで全校の共通認識が持てた。 ◇登下校指導を継続し、登下校時の安全管理に努めていく。 ◆危機管理に対する教職員の意識を高め、情報交換と早期対応を適切に行う。 ◆登下校指導を継続し、児童や保護者、地域からの情報を確認するとともに、連携し、安全安心な学校づくりに努める。	保護者	A	100.0%	47.0%	53.0%	0.0%	0.0%
					地域住民	A	100.0%	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%
					教職員	A	100.0%	45.5%	54.5%	0.0%	0.0%
					児童	A	96.0%	75.1%	20.8%	2.9%	1.2%
		⑯子どもたちの学習していることや活動の様子を、学校・学級だよりやホームページ等で知らせている。 ※児童の問い「学校から配られた文書や通信は、すぐ家の人に渡し、読んでもらっていますか。」	A	◇ホームページに日々の授業の様子を上げ、児童の活動や学校の様々な情報を発信するよう努めている。 ◇学校だより、学級だよりの定期的な発行に努め、児童の様子を発信している。 ◆ホームページや学校だより、学級だよりで、早めの情報発信に努めるとともに、内容も工夫していく。	保護者	A	99.0%	58.4%	40.6%	1.0%	0.0%
					地域住民	A	100.0%	64.7%	35.3%	0.0%	0.0%
					教職員	A	100.0%	54.5%	45.5%	0.0%	0.0%
					児童	A	89.6%	62.4%	27.2%	6.4%	4.0%
		⑰学校は、保護者や地域と連携して教育活動を行っている。 ※児童の問い「家の人に学校のことや友達のことを話していますか。」	A	◇保護者、地域の方の協力により、教育活動がスムーズに行えている。 ◇学校運営協議会での熟議の内容を手掛かりに、活動内容や活動内容を工夫する。 ◇今年度もPTA球技大会を行うことができた。参加者も増えてきている。 ◆学校の教育活動には家庭・地域の理解や協力が欠かせない。段階的な事前の説明や情報交換、情報発信を丁寧に行い、理解と協力を得られるようにする。	保護者	A	98.0%	53.0%	45.0%	2.0%	0.0%
					地域住民	A	100.0%	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%
					教職員	A	100.0%	36.4%	63.6%	0.0%	0.0%
					児童	A	83.7%	65.7%	18.0%	9.3%	7.0%

	評価委員の意見	学校の対応
人間力	○最近の新入生は、数年前の新入生と比べると自発的な挨拶ができる子が少なくなっているように思う。家庭での挨拶の習慣付けができていないのではないかと。中学生はよくできている。 ○子どもたちは元気で大きな声で挨拶できて素晴らしい。私たち大人も見習って挨拶したいと思う。その日一日気持ちよく過ごせると思う。 ○挨拶することの意義について「なぜ挨拶が必要なのか」を理解させることが必要だと考える。挨拶は、人間関係を築いていく上で基本になるので社会に出てとても重要な習慣だと思う。しっかりと挨拶できる習慣を身に付けてほしい。 ○地域で子どもを見かけることが少なくなって来たように感じるが、子どもたちは夏休み中は、町主催のサマーキッズ等に参加して元気に過ごしていたようだ。また、公民館のわんぱく学級のキャンプにも参加する子どももあり、地域の中で安全に過ごすことができていた。 ○話をしっかりと聞くことについて、話し手と聞き手の意識に乖離があるようだ。お互いの認識を理解しあうことが大切だと考える。自分ではできているようで、実際にはできていないことがあることを気付かせるようにすることが必要だ。	○挨拶の意義について、学年に応じて指導をしていきたいと考える。また、登校指導や児童会の挨拶運動を継続し、気持ちの良い挨拶ができる風土をつくっていききたい。 ○夏休み中、子どもたちは地域の中で、見守られながら楽しく過ごすことができていたことに感謝している。今後とも地域に開かれた学校を目指し連携を深めて教育実践を進めていきたい。 ○相手の目を見て話を聞くという基本姿勢をしっかりと指導しつつ、分かりやすく簡潔な話の仕方もしていく必要がある。しっかりと研修を深めていきたい。
活力	○子どもたちにとって一番重要な項目だと考える。肯定的な評価が多いので素晴らしいと思う。 ○体育科の授業や課外体育の水泳練習を通して、泳げるようにさせることは命を守る教育として大切である。小学校でしっかりと身に付けておきたい。 ○学校に行きにくい子どもについては、しっかりと個々の原因等に寄り添った対応を続けていく必要がある。	○おおむね良い評価をいただいているので、さらに個々の課題に目を向けて改善策を講じていきたい。 ○限られた時間を有効に使い、命を守る技術としての水泳をしっかりと指導していきたい。 ○それぞれの気持ちをよく聞いて、寄り添いながらより良い成長ができるように、教職員間で情報共有を進め、組織的に対応していきたい。
学力	○保護者が本を読む習慣が薄れているのではないだろうか。親から本を読む姿勢を見せていきたい。読書を導く環境が大切で、環境が整うと興味を持って読書に取り組むのではないか。 ○自分の思いを文章にしたり、発表したりすることはすぐに身に付くことはないと思う。引き続き根気強く指導を続けてほしい。読み書きのアナログの力も重要だと思うのでバランスよく指導することが重要である。	○現在の取組を継続しつつ、新たに家庭（保護者）へも読書の啓発ができるように取り組んでいきたい。PTA・学力向上推進主任・学校図書館主任と協力して新たな取組を企画したい。 ○2学期の大きな課題としてとらえている。ペアやグループでの話し合いは、活性化してきているので、レベルアップを目指し、デジタルとアナログのベストミックスを考慮しつつ発表できる力を育成していきたい。
その他	○ゲームやスマートフォンに依存しないように、その他のスポーツや習い事など熱中して取り組めるものをさせていきたい。 ○地域行事にたくさん小学生が参加し楽しんでた。	○学校としては「スマホの約束」を基本に指導を継続していきたい。 ○地域行事にもできる限り協力し、さらに連携を深めていきたい。